

## 平成24年度 みどり清朋高等学校 第2回学校協議会 報告

日 時 平成25年2月8日(金)午後2時～4時  
場 所 本校校長室  
出 席 者 三坂会長、中尾委員、松崎委員、荻本委員、藤澤委員、古川委員  
久木元校長、勝山教頭、島事務長、乗田首席、中村首席、  
山本生徒指導部長、城戸総務部長

### 1 校長挨拶

「いじめ」や「体罰」問題をはじめ、教育課題が山積する中、より良き学校を目指して建設的なご指摘を賜るべく、活発なご議論をお願いしたい旨の説明があった。

### 2 本校の教育活動について

資料に従って、校長よりの報告があった。

#### (1) 資料1「府立学校を取り巻く教育環境」について

今後普通科総合選択制の学校は、府立高校の再編整備が検討される中で、「総合学科」もしくは「普通科専門コース」の設置等に向かう傾向がある。

#### (2) 資料2「公立高校の新入試制度・中学生の進路希望調査結果」について

前期・後期2回の入試が行われ、その間に私学の入試がからむことに伴って、中学生の志望校選択が複雑になっている。前期入試で高い倍率を誇っても、後期入試では定員割れの可能性も指摘されている。

#### 【主な質疑】

荻本委員：専門コースとして、具体的なイメージはあるのか。

勝山教頭：本校のエリアをイメージしてもらおうと良い。一部のカリキュラムに専門的な特徴を持たせた12単位の学校設定科目を修得するコースと捉えていただきたい。

松崎委員：中学校でも入試制度改革により、今年は私立の専願率が低下傾向にある。前期についてはチャレンジ意欲が高い反面、後期まで待てないという層もいる。

中尾委員：府教育委員会も、昨今は改革のスピードを速めつつある。その中で、進路希望調査において約4倍もの希望者がいることは、本校の魅力づくりがうまくいっているからではないか。

### 3 教育力向上に向けて

資料とテーマに従って、校長よりの報告があった。

#### (1) 資料4「授業力向上の取組」について

今年は授業力向上を重要テーマとして設定し、府教育センターが企画している「パッケージ研修」に参加した。公開授業や事前指導、7つのグループに分かれての教員相互の授業見学、振り返り討議、さらに研究協議を経て、学校全体の授業力向上に寄与したと確信している。また、2回の授業アンケートを有機的にリンクさせた結果、授業満足度をはじめアンケートスコアが、全ての項目で上昇したことも特記すべきである。

#### 【主な質疑】

中尾委員：他の教科の教員も互いに授業を見学し、職員会議で発表し合ったことなど、組織的な取組で感心させられた。一方で授業アンケートでは、1年から2年、3年へと、年次進行で「授業満足度」が低下している原因は何か。

勝山教頭：これからの分析が必要だが、エリア制の持つ弱点もあるのではないか。2年次にエリアに配属されると、以降はエリアの変更が許されない。各自の進路変更に伴って、選択授業とのミスマッチも生じている。

古川委員：在校生については、満足して勉強させてもらっていると判断していいのではないか。

三坂会長：授業の進むスピードや難易度についても難しい問題だ。授業評価を受け止め、生徒の学力レベルを少し高めに目標設定し、授業をすることも重要だ。

#### (2) 資料5「学校教育自己診断」結果について

生徒向けに実施したものでは、全20項目のうち17項目でスコアが上昇した。残る課題は、発表型授業の充実と部活動の振興、地域連携事業を全校規模に拡大する取組等がある。保護者向けのデータでも昨年を大きく上回っており、学校改革の取組への理解と期待感の高まりであると捉えている。一方で、授業参観しやすい環境を整えることの要望も寄せられている。教職員向けでは、年間の教育計画や組織間連携、各種委員会の機能性についての弱さがあげられ、来年度への課題となっている。

#### 【主な質疑】

三坂会長：家庭と連携する工夫が必要である。また教職員アンケートの回収率を上げることも努力してほしい。

岡田委員：教員のアンケート回収率の低さは、小学校では考えられない。各教員がアンケートの趣旨を含め、組織力アップの意味を理解していないのではないか。しかし一方で、短期間のうちにこれだけスコアが上昇したことについては、すごい一言である。授業アンケート項目の中には、生徒個人の自己評価をさせる部分もあり、生徒を主体的に育てようとする方向が見受けられる。その結果、教員による授業の工夫や親身さが生徒の目に見えているように思える。またパッケージ研修では、教科の壁を取り払って互いに授業力を高め合う努力が見られ、

アンケートを形式的なものにせず、教員自らが自身を問うという意識づけとなっているようだ。それ以外にも、学力向上のためには、個々の要因や学校としての取組につき、保護者等との双方向でのやり取りが重要で、自分の子どもがどのように育っているのか、目に見える形で行われることが必要ではないか。

三坂会長：地域との交流について、けっこう実施しているようだが生徒のスコアが低いのはなぜか。

校長：限られた生徒はけっこう参加してくれているが、もっと全校的な取組みとしての広がりが必要であると考えている。クリーン作戦などのような清掃活動も継続していきたい。

藤澤委員：公民館活動等、積極的に地域交流をすすめておられ、感謝している。

坂東委員：ボランティアへの参加や啓発も行っているなので、今後も声かけを行って欲しい。

(3) 資料6「普通科総合選択制アンケート」結果・資料7「地域連携の取組・エリア改編」・資料8「24年度新たに実施した主な取組」について

「普通科総合選択制高校で学んで良かった」のスコアが低下していることについては、反省材料であり今後検討していきたい。また、エリアも来年度に向けての改編作業が完了している。

(4) 資料3「24年度学校経営計画の評価と来年度の計画」について

以上の報告から、今年度かかっていた評価指標では多くの部分でスコアが上昇していることが明らかである。一定の成果があったと考える。来年度の経営計画につなげていきたい。

#### 【主な質疑】

荻本委員：今後ICTを授業に取り入れていく予定はないか。

校長：タブレット等の学校配置を要求しているが、予算獲得は厳しい状況にある。

岡田委員：教員相互の授業参観を、ぜひ小学校とも共同で行って欲しい。

校長：こちらからも、ぜひお願いしたい。

中尾委員：来年度の経営計画で、「家庭での予習・復習」のスコアアップについてどのように充実させるのか。

中村首席：生徒が学びに背を向ける原因は授業にある。授業力の向上と、シラバスの検討が重要だと認識している。

校長：各教科及び進路指導において、学年の壁を越えた組織的な対応が必要と思う。

三坂会長：スマートフォン利用のためにアルバイトをする生徒など、授業に身が入らない者に対してはどうか。

乗田首席：予習・復習を課すだけでなく、授業改善などトータルに生徒たちに意識付け

していくことが重要だと考えている。

#### 4、研究協議・まとめ

三坂会長：今回は概ね良い議論ができたと思う。指摘された部分を改善して今後につなげて行って欲しい。

各委員の意見を参考に、微調整して来年度の経営計画としたい旨校長よりの感想があり、各委員への謝意を表し散会した。